

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ニシン

学名 *Clupea pallasii*

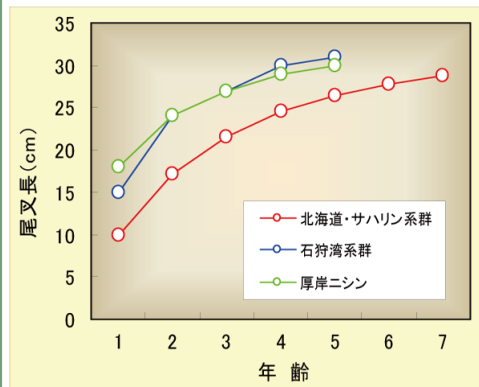
系群名 北海道

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 6~18歳
 成熟開始年齢: 2歳(石狩湾系群、厚岸ニシン)、4歳(50%成熟年齢:北海道・サハリン系群)
 産卵期・産卵場: 1月~5月上旬、石狩湾から稚内にかけての沿岸、サロマ湖、野付、風蓮湖、厚岸湖、湧洞沼、噴火湾周辺
 索餌期・索餌場: 北海道全域
 食性: カイアシ類、端脚類、オキアミ類、魚類(卵・仔稚魚を含む)
 捕食者: 不明

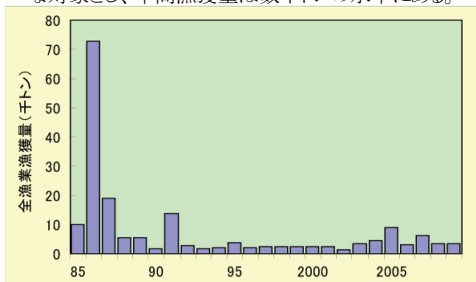


漁業の特徴

ニシンは沖合底びき網漁業(沖底)および刺網、定置網漁業などの沿岸漁業によって漁獲されている。沖底では、日本海で秋~春季、オホーツク海で周年、太平洋岸で秋~春季に漁獲されている。沿岸漁業では、石狩湾以北の日本海沿岸、オホーツク海の枝幸、雄武、網走周辺と、太平洋岸の風蓮湖、厚岸湾・湖、湧洞沼、噴火湾沿岸で漁獲されている。それぞれ、時期と場所によって、成魚、未成魚や産卵群、索餌群など漁獲の対象が異なっている。

漁獲の動向

北海道・サハリン系群を主な漁獲対象として、1897年に97万トンに記録した漁獲量は、増減を繰り返しながらも減少の一途をたどり、1955年以降は低い水準で推移している。1983年と1988年に、北海道・サハリン系群とみられる豊度の高い年級が発生したが、資源の回復にはつながらなかった。近年は、北海道・サハリン系群以外の地域性ニシンを主な対象とし、年間漁獲量は数千トンの水準にある。



資源評価法

北海道のニシンは、北海道・サハリン系群の他に、テルペニア系群、石狩湾系群、湖沼性系群が混在している。また努力量の標準化が困難で、CPUE等の資源量指標値も得られていないため、資源の水準および動向については、1985年以降の漁獲量の動向に基づき判断した。

資源状態

資源水準は過去25年間(1985~2009年)における漁獲量の最高値72,729トン(1986年)と最低値1,343トン(2002年)の間を三等分し、高・中・低位とすると、2009年の漁獲量3,520トンは、1,343~25,138トンの低水準に属する。また、資源動向は過去5年間(2005~2009年)の漁獲量の動向から、横ばいと判断した。



管理方針

北海道周辺の漁獲量は北海道・サハリン系群の資源量の多寡が大きな影響を及ぼしており、過去にみられたような数万トン規模の漁獲量となるためには当該系群の劇的な回復が必要である。低水準期においては時折発生する卓越年級群を適切に管理し、資源回復の可能性を高めることが重要である。北海道・サハリン系群が分布する日本海およびオホーツク海域で操業する沖合底びき網漁船では、体長22cm未満のニシンがニシン総漁獲尾数の10分の1を超えるような場合には直ちに操業を中止して、他の漁場に移動しなければならない制限が行われている。このような若齢魚保護への取り組みは極めて重要な管理方針であり、今後とも継続する必要がある。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	-	-	-	-
ABCTarget	-	-	-	-

資源評価のまとめ

- 北海道ニシンを支えた北海道・サハリン系群の来遊が見られなくなった1955年以降、漁獲量は数千トンと極めて低い水準で推移している
- 資源水準は、最近25年間の漁獲量から低位と判断した。また、資源動向は、最近5年間の漁獲量の推移から横ばいと判断した

管理方策のまとめ

- 北海道周辺の漁獲量は北海道・サハリン系群資源量の多寡が大きな影響を及ぼしており、数万トン規模の漁獲量となるためには当該系群の回復が必要である
- 卓越年級群を適切に管理し、資源回復の可能性を高めることが重要である
- 沖合底びき網漁船で行われている体長22cm未満のニシン漁獲規制は、今後とも継続する必要がある

執筆者: 村上直人

資源評価は毎年更新されます。